



眼少くハ源氏の大意をうらむいかに  
○去如沙そのお嘯山シヨウサンより一そつふいーうらふ家  
其の子孫多きことんく翁を郭子儀クワクシイをうらむい多  
終に嘯山云我を郭子儀の物なりイヌ、うらむい郭子儀の  
急れころ少くいなりとて人ぬ憎コウケイむれともコウブ宿小  
第一とありーのよれこ人なりと急也ありー其  
を子孫不めらふ宿よりあいらりかたれと  
ゆき

○ そくてうらむい

蟻れくぬ 揚弓 空欄小佛のまき 法沙の系圖  
隠者の内へ時斗乃きとる 寺院の富 老尼れ

多老痕

ありとよれとよ

元日此鷄の夢 藝能ある友 曆老彼岸  
老人乃杖 長日ふらこの夢 むしらのみ 面白  
一風十日一雨 うつー画のわく人 懐中此茶

音ありとよつとるもの

魚植れ音 釜のたき くのふ 月下此琵琶

ありかきとるもの

くやむ乃花 くらこの鞋コウケ 鶴の歌  
雷の太鼓

こくゆとるもの

雨後の月 急流れ舟 夕川の音 雲のあはれ

すさまうし記

電 馬市 石弩 修験者入

おろし云ひひくおろし

正月の儀式 神職 僧尼

しきくくのころの

神泉苑の池 右近れる場 二十二間堂

招提寺 東にれ什物

烏子折

追考今ノ右近馬場  
古地ニラスト見袖  
中抄

函とそめ 匠の月代 社社 端午紙幟 煙州

佐押書世 義仲のり糸 渡唐の天神 追考苗ヲ深ル  
紫女日記見エ

はねふ云おのめもの

地震乃歌 誕辰 タシヨウビ

きくくらのいんまうりするの

富士 大文字乃火 松島 うき花 追考或云ク  
花今見テリ又

くふしけおのめ

いつくあつる白老る民のひりくはる

はりねおしく牛車 地獄の忌 又云ありく  
俗もくし事なり

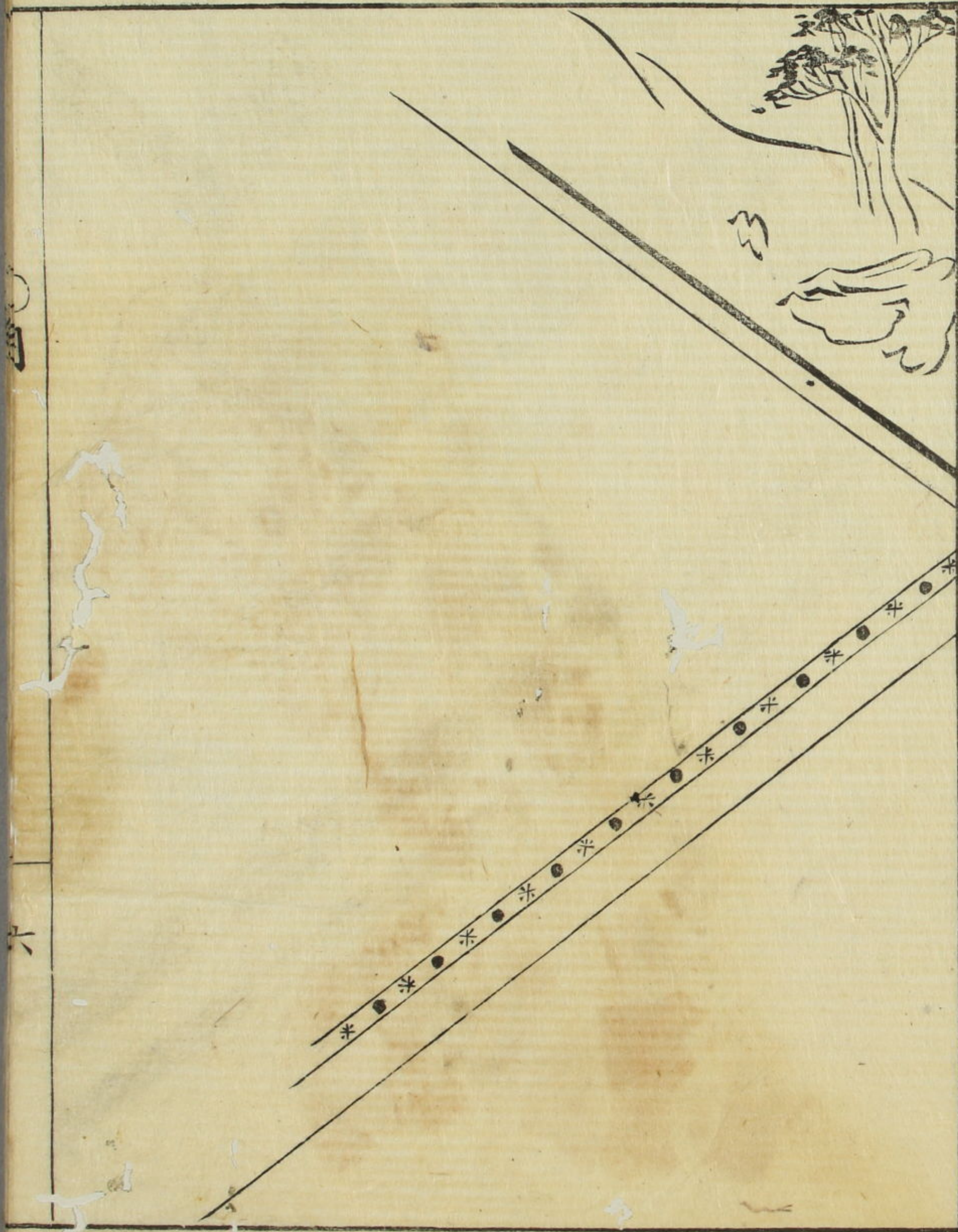
くろくまの因民の縁橋ふくし  
民の秋入てい傍飯もつる  
おそらーきもの

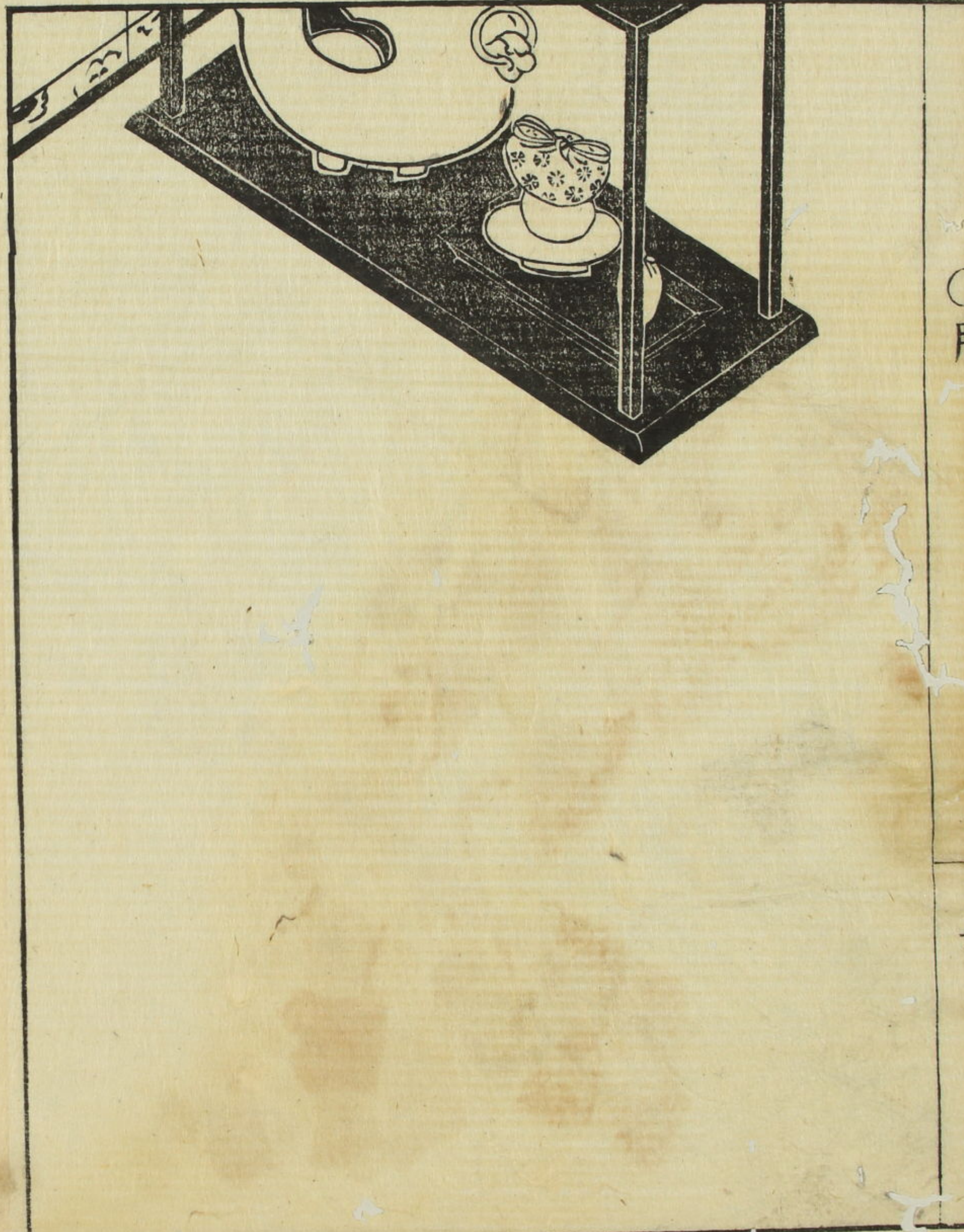
山姥小折香く櫻けあまうく あら海まそ記のねどろ



人しんさくふ事依揮りて是蓋天目の魂を度せ  
 する茶の土とりて法なりた終て供養と解する事  
 其人の急する人うへふううををくすりとさ  
 とてゆえぬことなり假令清無れ終あること  
 一旦愚ふはそりてふ境てふものいよくその功終  
 あらん茶盤乃くすりとゆふ文字の乳字あり 同前  
 茶碗にたつるうめく極傳あるをうふ真れ意子や  
 く深秘けり極台とも人うひくく師も費子と  
 唯授一人乃ううにそりてそれ意子冬大慶花  
 備忘点茶の具なり人ううりてふりて意ふさ  
 まくする意とと極といはきんふやあん 同前

○永享の比よやありけん富河義教公の地傳今う  
 ころころあり 自上より上苑乃洗茶よ三品の意  
 添く編をゆれを義教籠於赤松貞村としてそ  
 とお賣とらうして南原十二巻うりてそと  
 楓がとそ級第点茶乃宴けりる貞村この時ゆり  
 是れ水干ふ折烏帽子とふしり点茶せしとるん  
 其式もいふつと真能なる若今いふは此意も  
 ころころしる今うう此草莽体乃わびる楓情  
 心さうさう一客儀也とそふ起居進退んこと  
 ありしとそ也意也此の式今れ世うりてあらん  
 形もれいゆふ意と意ありのもさく速水茶伝也





月

九







○月  
九  
あつらんめいを建とめ居ていつまでもさういふ  
るん者もあかくさうり多くとまを終のあまこの終  
くら入くさやぬ

得少年老く後々そのの終るなるさうさうと身子  
のわししく少いりまてなうつせとかくさうの  
實じとて終まるやうさうさうのさうさうのわさ  
そ終まのさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
こ終人さうさうさうさうさうさうさうさうさう  
ふうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
のあやさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
れ一日世ふおさうさうさうさうさうさうさうさう

あつらんめいを建とめ居ていつまでもさういふ  
るん者もあかくさうり多くとまを終のあまこの終  
くら入くさやぬ

○右大將頼朝卿の冨士州北野せんとしてその或とも  
と免後色衣紋をそのの取置ぬさうりし小把後阿蘇の  
言大官司のあまつて人を侍下世の將のさうさうさう  
えくさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
くりと終ぬその取置とえうりさうさうさうさうさう  
今小大官司の家よつて人ぬ  
○享保年中北比もあやう人京師さうさうさうさう  
小庭の形とさうり終るさうさうに産主の二字とありさう  
と去中よりほり出せうさうさうさうさうさうさう

○大官司推警京小のさうさうさう  
白比後色衣紋のさうさうさうさう

板牌の面













を人うしやう食ハ人ふらじりきとくひる人いしきぬ  
まらりいづれをばりりとせんやきうたもいん一き  
かろふ夢あむらふふ吊りりらるふ吉あぬ  
うねふ出あり上乃信ふあまふ心ぬくしきて心骨の  
芳う一續き民とるりて心骨を分とれとも心ぬ  
いしゆ患けく人生百年際ゆく約のてし富多食  
贖ててふるきや吉凶禍福忠二ハ各其身ふくち  
たりのりのとねや

○唐少く趙子昂と結書といしんくあつるが宮河  
為此時代なるよし結書なるふ子昂といふ結書  
きい昂子といふ季統一吳沙といふも南京城の下を

いふる昂子といふるは吳例とあやまりたり  
はて或曰ていふ吳楚といふるやう吳沙といふやまりか  
アともいり

○赤石の梁田セイガン姫メヒの久しく備後守り  
あふあやうとくもくもくぬ中終れはるれ  
名う一はあう一の浦とてむ人の

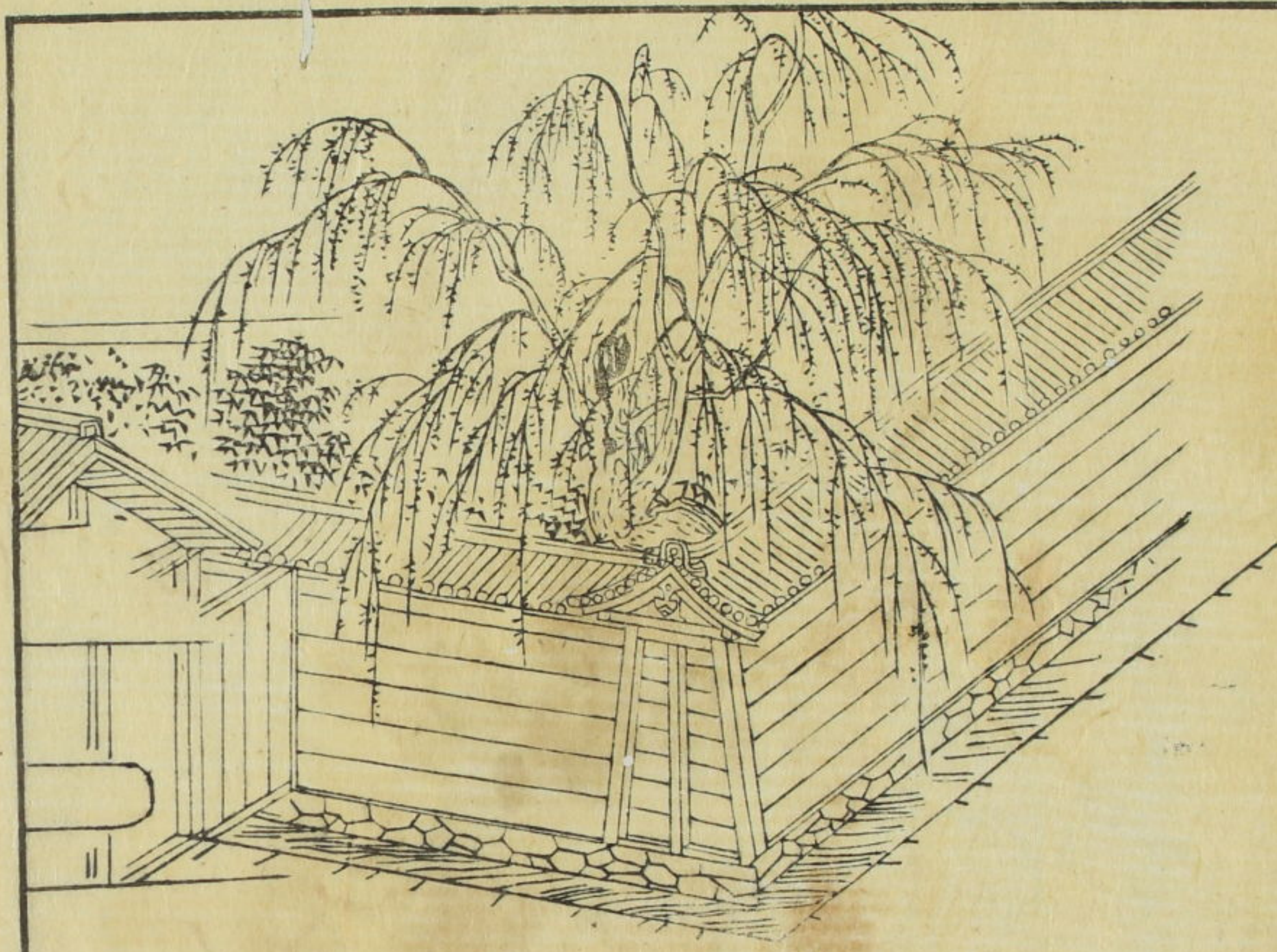
新の川しき秋れは月  
とるんくく危る蛭富ハ待ふあある人を終とあふ  
常小孫せりしあのかくふ始くああゆくやぬ  
そんくくあうあ一人のそのき  
くくくぬ備後守もかあふ



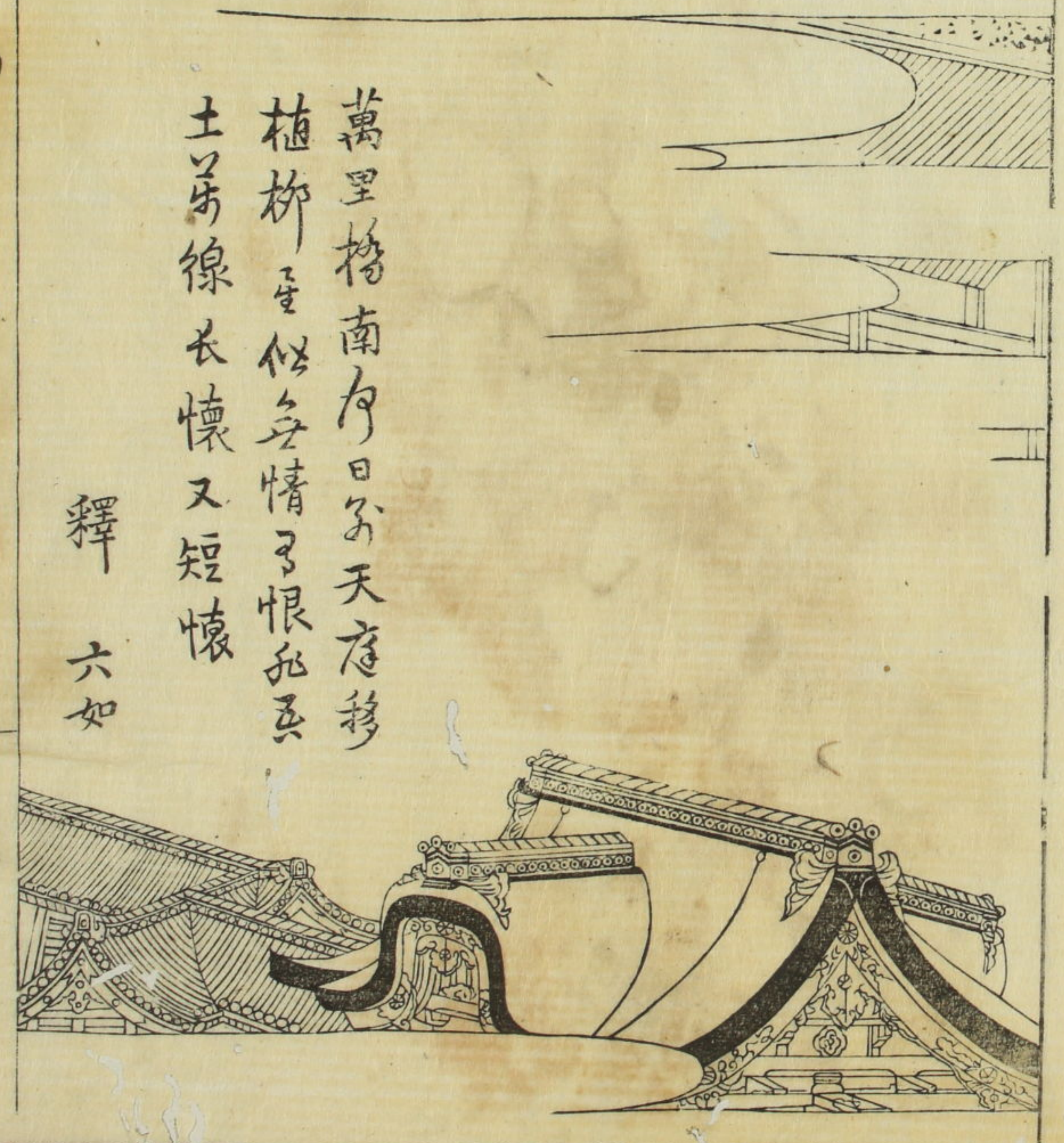








左明圖



萬里橋南月日天  
 庭移植柳至似多情  
 予恨死五土弟線  
 長懷又短懷

釋六如









口とて... 林守... 大... 中... 定頼... 別小繪馬のうし... 追考... あり... 哥... 梓... 類... 此... 段... 刪... 去

○印行の書... 大鏡... 和守將... 盛... る... 清書... 杜... 撰... 者... あり... 作... 者... あり

○後とありふりらりゆるき... あり

○昆陽漫録... 原書... 本の... 昆陽漫録... 益... 者... あり... 人... あり

○... 國守... 乃... 樹... 唐... 牛... 子... 此... 國... 大... 富... 強... 國... あり... あり







